

## 広島市まちづくり市民交流プラザ運営委員会 第1回運営委員会 会議録

日 時 平成27年6月10日(水) 14時～16時

場 所 まちづくり市民交流プラザ 南棟4階協議室

出席者 (委員) 波多野委員長、阿部委員、東委員、弘中委員  
(プラザ) 津田館長、樋口主任

### 議事及び会議要旨

#### 議事1 平成26年度事業報告について

事務局から、平成26年度事業実績について報告を行った。

#### 議題2 平成26年度モニタリングアンケート結果について

事務局から、平成26年度に広島市が実施した「利用者アンケート」(モニタリングアンケート)の結果について報告を行った。

#### 議事3 平成27年度事業計画について

事務局から、平成27年度事業計画について説明を行った。

#### 議事4 若者が集まる施設運営について

「若者が集まる施設運営」をテーマに、以下の3つの視点から意見交換を行った。

- ① 若者がプラザを利用し、生きていく力を育み、吸収できるものがあることが大切。人(若者)が育つための施策が必要である。
  - ・人とのつながりが失われてきている。コミュニケーション講座(ワークショップ)や中高年との討論会を実施してみるとよいのではないか。
  - ・プラザの行事にボランティアスタッフ等で参加することにより、異文化や異世代の交流の機会となればよい。
  - ・講座を受講して終わりではなく、受講したのちに自主グループに入って活動し、若者と中高年世代が交流するような仕組みがあるとよい。
  - ・今は携帯電話やスマートフォンが使えないと若者との交流は難しい。
  - ・無線LANなどの環境整備が必要である。
  - ・講座終了後には、「修了証」や「資格者証」などをプラザ館長名で発行することを考えてみるとよい。
- ② 若者にプラザに行ってみたいと思わせる情報提供の方法を工夫する必要がある。
  - ・「あなたの人生をふり返ってみませんか」とキャリア戦略に関する講座や討論会等で若者との交流を図ってはどうか。意欲や理解力を養うことが大切である。
  - ・漫画やアニメ、ゲーム、スマートフォンなどのメディアを使うとよいのではないか。
  - ・広報紙(チラシ)というのは、若者にはあまり効果がない。

- ・大学のボランティアリーダーを通じて情報を提供してはどうか。
  - ・特に女性を対象に情報提供を行うとよい。女性が参加すれば男性も一緒に参加するケースは多い。
  - ・おしゃべりや飲食ができる場所であると若者は利用しやすい。環境づくりが大切ではないか。
- ③ 若者が心を開き、育っていくための事業を企画するために、若者気質を分析する必要がある。
- ・人の話を聞くのは上手だが、自分の意見を持っていない若者が多い。
  - ・学校教育が大事である。
  - ・教育者から若者気質について話を聞いたり、学生のボランティアリーダーの話を聞いてみる機会を持ってはどうか。

※次回運営委員会で引き続き協議することとなった。

#### 議事5. まちづくり市民交流フェスタの実施について

事務局から、平成27年度まちづくり市民交流フェスタの実施要項(案)について説明したのち、意見交換を行った。

- ・フェスタはプラザで学び、活動してきた人たちの発表の場である。
- ・フェスタでは、人集めのための企画も必要だが、プラザという施設のPRという点を考える必要がある。
- ・フェスタの実行委員長等は若い人に任せてはどうか。
- ・プラザの利用者層は中高年が主なので、若者の視点だけでもいけない。中高年と若者の両方の視点が必要である。
- ・新たに設置するイベント部に若者が参画し、将来的には彼らにフェスタの運営を担ってもらえるとよい。

※おおむね実施要項(案)どおり了承。

運営委員会とプラザによるフェスタ幹事会の開催決定。【日時：7月10日(金)午後1時半～】

閉会